



『ロングインタビュー』
早川公認会計士税理士事務所
代表
早川和志

Q 略歴をみますと、いろいろな経験をされていますが、どの経験が一番貴重だったのでしょうか？

履歴書が汚くてすみません(笑)。20年以上公認会計士または税理士の仕事をしていますが、平成9年ごろからの金融危機に対応した、金融再生委員会事務局で課長補佐をやらせていただいたのが、今の私にとって大きな糧となっています。国家公務員という、全くちがった組織で働いた経験は、今の自分の仕事のやり方や考え方、ものの見方に大きな影響を及ぼしています。

Q 監査法人も何社か勤務されておりますね。

はい、当時外資系事務所であった監査法人三田会計社(現 監査法人トーマツ)、太田昭和監査法人(現 新日本監査法人)、中央青山監査法人、新創監査法人に勤務しました。

この中で、公認会計士としてどこで育ったかと言えば、太田昭和監査法人です。今、監査法人クラリティを運営していますが、この太田昭和の時の先輩・後輩・友人と一緒にしています。

Q 最近、税理士事務所も開設されたのですね。おめでとうございます。

ありがとうございます。いろいろ友人・知人と話していると、『会計監査』のニーズよりも世の中では『税務』のニーズが圧倒的に多いのですね。もともと、比較的小さい会社の面倒をあれこれ見させていただくのが大好きな自分にとって、ピッタリだと思いました。とは言っても、『税務』も非常に幅広くかつ奥が深いので、日々自己研鑽中です(苦笑)。

Q どのような時、仕事に喜びを感じますか？

それは、やはり日々積み上げてきた知識や経験が役に立ち、お客様に喜んでもらったときです。われわれのような『士業』に共通なこととは思いますが・・・。

Q 夢はありますか？

はい。あります。監査法人クラリティ・早川公認会計士税理士事務所を大きくして、自分のやり方が、世間様にとって価値あるものを提供しているのだということ証明していきたいです。「夢に日付を」入れないとはいけないのですが、実は、まだ怖くて入れられません(・・;)。



Q 趣味は読書と聞きました。

読書は好きですね。本というのは、最高のコンテンツですし、ひとかどの人の10数年分の経験や英知がたまっているからです。

また、ある人によれば、読んだ本の価格の平均100倍のリターンが将来あるそうです。

Q おすすめの本を紹介してください。

どの分野の本が読みたいかにもよりますが、経営には理念が必要だと痛感させるのが、『ただ成功のためでなく』渡邊美樹 ソフトバンク文庫 です。自分も含めて『ただ成功したいのみ』の人に読んで欲しいと思います。また、渡邊美樹氏を主人公に実名で描いたビジネス小説が、『青年社長 上・下』高杉 良 角川文庫 です。企業家精神を持っている人なら是非読んでいただきたいです。

ワタミフードサービスの起業、業容の拡大、会社の危機、創業メンバーとの別離、大企業との提携、株式上場、居食屋にとどまらないさらなる夢の実現へ。

渡邊美樹氏だからこそそなし得たこと、渡邊美樹氏にもあった、われわれと同じような悩みや葛藤が生き生きと描かれています。

『ブルーオーシャン戦略』W・チャン・キム+レネ・ルボルニュ

武田ランダムハウスジャパン

新しい経営戦略論です。「いかにして競争相手より有利にたつて利益をあげるか」ではなく「いかに競争しないで利益をあげるか」という戦略論です。

キャロウェイの「ビッグバーサ」やNTT docomoのi-mode、シルクド・ソレイユなども例としてでてきます。

『勝てば官軍』藤田田（デン） KKベストセラーズ

日本マクドナルドの創業者、藤田田（デン）氏の著書。「自分の会社の業績が悪いことを不景気のせいにするな。そういう経営者は好景気になっても業績をあげられない」日本のハンバーガーチェーンで、また、外食産業で、なぜ日本マクドナルドがダントツなのか理解できます。

Q 映画もお好きだとか。

好きというより、観るようにしているというのが正解です。人生後半戦になり、自分
は人よりも感動の回数が少ないのでは、と思い始めたのがきっかけです。

また、かなり忙しい人でも、映画館にマメに通っていることを知り、努めて観ていま
す。

Q 長時間ありがとうございました。

こちらこそ、お忙しい中お時間とっていただき、ありがとうございました。

インタビューを終えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

今回のロングインタビューで捉えた早川氏の印象は、彼の言う“真摯かつ誠実”

な姿勢です。好きな戦国武将が織田信長、好きな三国志の武将が曹操という割には、彼らのような強烈な強さは感じませんでした。もしかしたら、自分にないものの憧れとして信長、曹操を見ているのかもしれませんが、怖くて「夢に日付」が入れられないと言っていましたが、それは単なる照れ隠しなのかもしれません。

インタビュアー／高島綾子

最後までお読み下さった方、ありがとうございました。